

学校評価について

幼児教育の質の向上のため、園が『自己評価』を行い、また第三者に『学校関係者評価』を行います。(尚、学校評価は文部科学省によって義務化されています。)

令和5年度自己評価・学校関係者評価報告書

【本園の教育目標】

1. 幼児期は五感を通して、具体的なモノに触れ、いろいろな事象について認識しながら成長していく時期であるから、その手段として環境が重要な意味をもってくると考えられる。そして環境を生かした保育の中で、それぞれの子ども達の特性を大切にしながら意欲を育て、ひいては未来へと続いていく生きる力を育てる。

《手段》 実体験という行為をたいせつにする

それが卒園後も未来へと続くものであること

具体的に言えば、自然の活動、造形の活動、音楽の活動、生活習慣、

ゲームを通してルールを楽しく知る、日本語を知る、身体づくりなどと

心と体がバランスよく育つように考えている

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

	評価項目	評価	取り組む状況
1	新規採用者の研修の仕方	D	世の中の変化に伴う新人研修の仕方の工夫を考える。今年度は新規採用者がいなかったため、来年度の課題とする。補助職員の研修ができなかった。
2	自然から学ぶことは大きい。年齢ごとの土や植物との関わりについて、より具体化する。	B	庭の排水桝の手入れや、枯草、植物の手入れ、食べられる野草について知ること、食べてはいけない植物について知る。たくさんの方が経験できたことはよかった。しかし、更に計画性があるとよいのだが、温暖化で気候も変化するので難しい点がある。
3	母屋での歳時記の活動が滞ることのないようにする。	A	母達が郷土のお世話係として忘れずに活躍してくださったので、順調であり、ありがたく思った。

4	<p>保護者の勉強会を定期的に計画する。子育て支援のあり方について考える。</p> <p>また、園の保育に関心を持つよう保護者に働きかける。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・特に子供との遊び方など子育てについてわからない方が増えているように感じる。 ・1学期に本田涼子氏（プレイセラピスト）に遊びについて、また国光美香氏に幼児の食べ物について講演をしていただいた。 ・入園前の親子の関わり方などお手伝いさせていただいた。 ・子どもの描画表現の読み取りなどについての小さな会を重ねた。
5	<p>発達に遅れがある子については、お二人の先生にご指導などを仰ぎ、職員同志で共有する。</p>	B	<p>子どもを理解するための見方、また今後どう接したらよいか指導していただいた。</p> <p>ひとりひとりその子の発達の姿が違い、その子を取り巻く家庭環境、世の中の流れの中で、子ども理解が大変難しくなってきた。</p> <p>職員同士の共有については、9月以降、共有する意識が薄くなってしまった。</p>
6	<p>安全、防犯については、道路を横切って畑や第2グラウンドへ行くとき、車に注意すること。</p> <p>毎朝、幼児にとっての危険チェックを行う。</p>	B	<ul style="list-style-type: none"> ・風が強い時には、大きな樹木がある区域へは行かないこと、移動の時は人数確認することなど気をつけた。 ・道路を横切る時の安全は、隣家の垣根がフェンスに変わったため、見通しがよくなり、安全になった。 ・幼児の怪我の記録にヒヤリハットの出来事を加え、安全チェックに力を入れるようにした。 ・駐輪場付近の人の流れの安全を考えて、自転車の通行の仕方を決めた。 ・温度計・湿度計を設置し夏の暑さに備えた。
7	<p>音楽活動については、コンサートなどを通して良い刺激を幼児は受けているが、日常気軽に親しめるようにしたい。</p>	A	<p>いくつかの楽器を新たに購入した頃から子ども達の中に楽器の出番が増えた。これは、楽器の置き場を数年前から整備したことも大きい。子どもたちのためのコンサートに、金指修平の歌の会、ベイビーズの歌、南部勇木のジャズピアノ、森本ミホのパーカッションを含むピンクフィッシュの3人を迎え、親子で楽しんだ。</p> <p>大人が歌うことの必要性和、幼児にとって、歌の新旧、音楽のジャンルの境界がないことを改めて感じている。</p>

8	職員(特に一人暮らし)の健康管理のサポートが必要である。	B	お弁当を持ち寄っての会食の時、食事のことや睡眠時間などについてアドバイスを続けていたところ、お弁当の中身も工夫されるようになり、それが保育にも良い影響を与えている。
---	------------------------------	---	------------------------------------------------------------------------------------

【今後取り組む課題】

1	新規採用者の研修の仕方	本人がわからない点にそって、基本的なことを項目別にわかりやすくしておく必要がある。 自身の努力も必要である。 補助の方の職員会への書面などでの参加も考えられる。
2	1年間の幼児の活動の計画の確認と見直し	栽培をはじめ植物や土の手入れなど、四季の変化の中で気候に合わせて、活動することが多い。 温暖化に伴い、毎年この時期ややり方には、違いがある。年間の計画の中で、時期に幅を持たせながら、子どもたちの活動を考える。 細かいこともあるので、皆で忘れないようにする。

【総合的な評価結果】

新規採用、補助の方の研修がうまくいかなかった点を反省している。積み重ねが必要である。総合的に見ると、1年間の活動の配分については、その年の気候などにも考慮しながら進めていく必要がある。準備など丁寧にすることが引き続き必要である。保育活動が順調に行われるため、保護者の協力が大きかったことへの感謝をここに記しておく。

評価 A：十分に成果があった、B：成果があった、C：少し成果があった、D：成果がなかった

【第三者評価結果】

① 自己評価の目的は、自己研鑽と入園する保護者への情報開示が目的だと考えました。

申請園幼稚園で大切にしていることは子供の成長を促すと感じておりますので、今後を引継ぎ、ご職員一同、保護者との連携をとり、子供達の力を引き出す園で有り続けよう、努めていくべきだと思ひました。現状、自己評価に通ずると思ひます。

- ② 園の持つ恵まれた環境を生かした保育が、子供たちの心身の発達に良い影響を与えていると感じます。
今後の課題に取り組んでいただくと共に、保育を担う職員の皆さんの健康やモチベーションを保つために、引き続き、働きやすい環境づくりやワークライフバランスの充実に努めていただければと思います。

- ③ 全く同感である、保護者として保育活動や園の参入に多く参加していたので、より共感する。

2024. 3. 30